水産放浪歌

の女性に恋するを純情の恋と誰が言うぞ。

月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ。
ザッか きかば こと う じょせい じゅんじょうかれん もの 雨降らば雨降るもよし風吹かば風吹くもよし

のない。

吾ら海行く鴎鳥 こく雷鳴るいらいめい 握る舵輪 さらば歌わん哉 睨むコンパス六分儀

吾らが水産放浪歌

心猛くも鬼神ならず

母を見捨てて浪越えてゆく 男と生れて情はあれど 友よ兄等よ何時また会わんとも、けいらいってある。

続く海原一筋道を 朝日夕日をデッキに浴びて 大和男子が 心 に秘めてゃまとおのこ こころ ひ 行くや万里の荒波越えてゅんだんり

波の彼方の南氷洋

胸に秘めたる大願あれど 男多恨の身の捨てどころ

行きて帰らじ望みは待たじゅ

(仲田三孝作詞、 成立事情不明なるも蒙古放浪歌 換え歌と推定される。 川上義彦作曲)の